



Light and Architecture
vol.3



撮影

大橋富夫	4
大竹静市郎	6
大竹静市郎	8
杉野圭	10
松村芳治	12
畑亮	14
大竹静市郎	16
月岡陽一	18

妹尾の家／神家昭雄(神家昭雄建築研究室)	4
日高の医院／倉橋英太郎(倉橋英太郎建築設計事務所)	6
須磨・天神町の家／吉井歳晴(WIZ ARCHITECTS)	8
高城町の家／長坂大(Méga)	10
Bubblectecture 岡澤／遠藤秀平(遠藤秀平建築研究所)	12
代官山の家(改修)／金田正夫(無垢里)	14
Gradation／前田卓(アトリエタック)	16
川湯エコミュージアム／若本隆志(チカラ総合設計)	18

古い釜屋に光と風をプレゼント



妹尾の家／神家昭雄



この住宅は新築の母屋と古い釜屋・蔵で構成されている。民家再生では古い建物に新しいデザインをいかに附加するかをテーマとしているが、ここでは古い建物を新しくデザインすることはさけ、古い部分と新しい部分を明確に分け、暮らしの中で新旧の建物の対比を楽しみながら時間の流れが感じられる豊かな住まいを考えた。釜屋は台所として既に改造されていたが、外気に面する窓がなく、暗く息苦しい感じであった。そこで新しいデザインを入れる代わりに開閉式の天窗を設け光と風をプレゼントした。又、つなぎの土間や階段にも天窗を設け、裏方の空間を光によって魅力的な場所にしたいと考えた。階段ホールに天窗は裏山の緑を取り込む窓となっている。一日中どこかに光が差し込む窓があり、変化に富んだ住まいとなった。



裏山の緑が屋根瓦越しに順光で見える階段ホール



建物が呼吸するための「生きた窓」



神家昭雄プロフィール

1953年岡山県岡山市生まれ。1974年明石工業高等専門学校建築学科卒業。1987年PLUS建築研究所設立。1994年神家昭雄建築研究室に改称。
 ◇古民家再生工房メンバー◇
 1998年日本建築学会作品選奨受賞。BELCA賞受賞。1999年日本建築学会賞(業績賞)受賞。2002年福武文化賞受賞。グッドデザイン賞受賞。2004年「真の日本のすまい」提案競技 文部科学大臣奨励賞受賞。

田んぼの中にたたずむ大屋根からの一条の光…



瓦大屋根の6個のルーフウィンドウは、違和感なくとけ込んでいる。

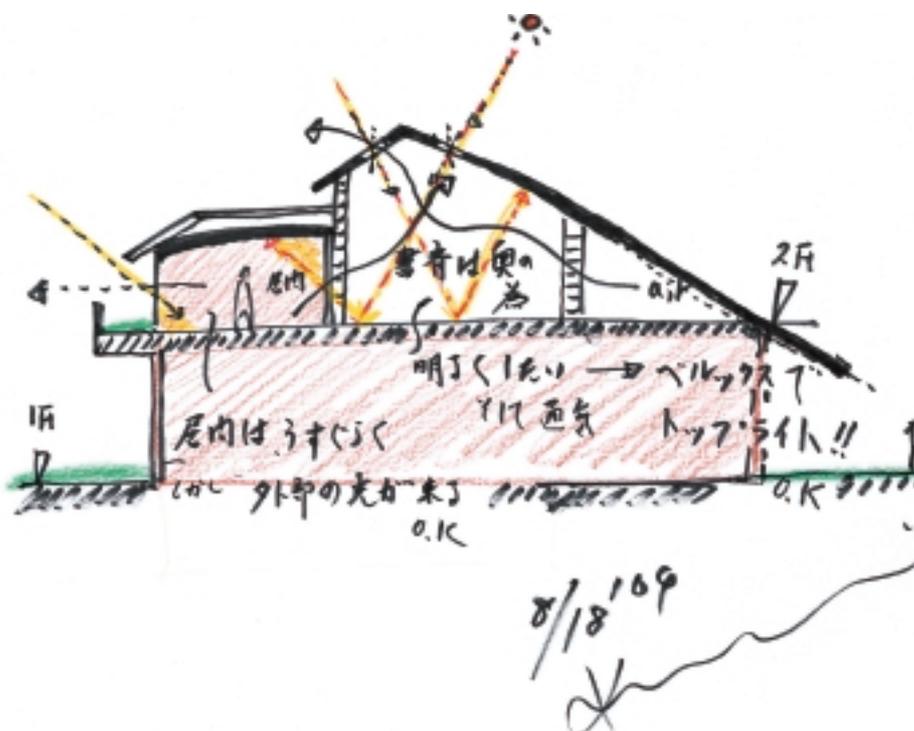


居間の吹抜けに取り付いた4個のルーフウィンドウは四季の光を通し自然換気がよく行える。

日高の医院／倉橋英太郎



京都駅からJR山陰線に乗り約2時間「江原」駅に、そしてタクシーで10分、この地に着く。更に20分程乗ると「城崎」にたどり着き、日本海も近い。この地は、日本海側気候であり、高温多湿、雪もまあまあ多い。北端の地、日高、伊深と、この地の人は呼ぶ。訪れる時は、きまって晴れの日が多かったが、たまに出会う雨の日は、幽玄妄想の世界が広がり、山麓の裾野に広がる霧雲からは、遠く中国桂林の風情さえ感じられる。人情も風情も慣習もまだまだ伝承されていて、日本のおおらかな良き田舎が、脈々と受け継がれている。又、この敷地の近くに植村直巳記念館が有り、コンクリートの打放しの建物が美しく、丘陵の中にとけ込むようにたたずんでいる。そんな地の田んぼの中に、私は「北但の伝統と現代の『和』を求めて…」瓦大屋根、土壁色と、この地に合う材質、形態を考えた。特に曇りの日が多いこの地においてトップライトは有効であり、吹抜けを通り抜ける自然光、自然の風は何とも言いえない爽やかさを与えてくれる。今迄先人達が苦勞をしてきたトップライトの雨仕舞いは、完璧に近くなって来ている。人工光に頼ることなく自然光、通風に優れているトップライトは、これからの建物に一つの道具として地球に優しい役割を増していくと思う。



倉橋英太郎プロフィール

1950年長野県松本市生まれ。金沢工業大学建築学科卒業後、アメリカ・ブルックス建築設計事務所研修。1983年倉橋英太郎建築設計事務所設立。事務所設立来『既存建物蘇生』による環境保全・まち並み修景の研究、実践、普及に従事。信州大学工学部非常勤講師(平成14年まで)。主な作品／山村医院(長野県知事賞)、井上医院(第3回病院建築賞)、倉田病院(第13回松本都市景観賞)

フレキシブルに対応すること

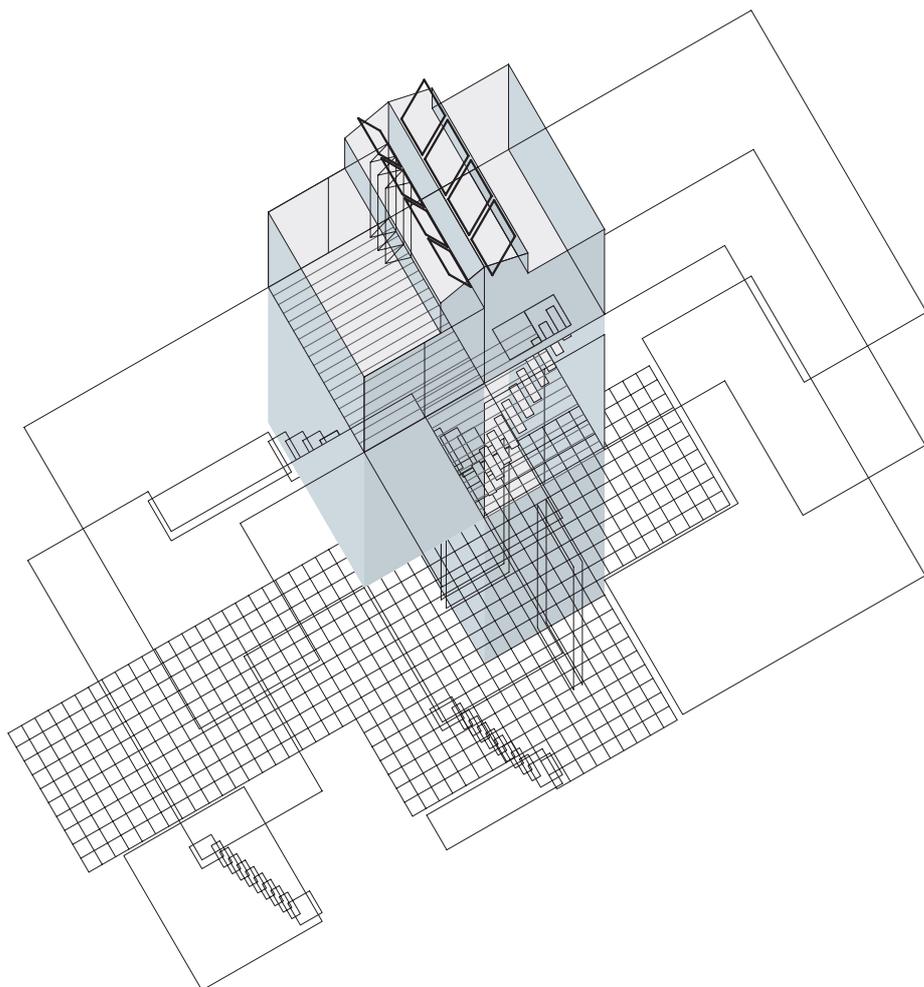


テイस्टィな空間をひきたたせるやわらかい光。

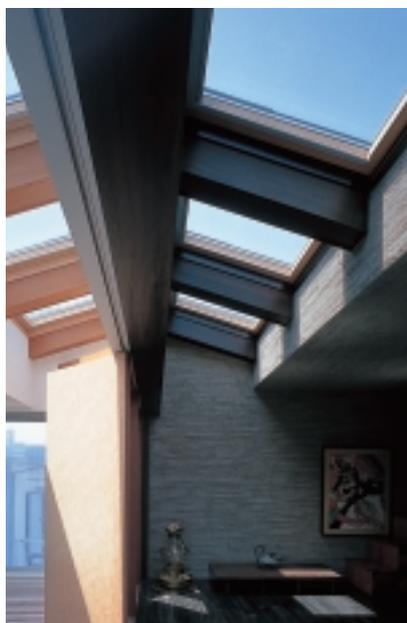


一階の個室、リニアーな家族室の断面がファサードに表出し、外壁はガルバリウムで覆う。

須磨・天神町の家／吉井歳晴



1995年の阪神淡路大震災による建替え住宅である。それぞれが自立する親子、夫婦一組と父、妹の四人が住まう住宅で、その構成はメゾネットや中庭等で上下、水平に距離をとりながら個々の空間を配し扉の開閉調整により、上下ルーバーフロアでつながるリニアな家族室に面している。ロフトには月を眺める為の主人の隠れ家又個々の接客の為の半プライベートにもなる空間を備え、並列するように同じボリュームのルーバーフロアの空間をもつ。この対峙的な空間にある二列のトップライト、一つは主人の好みである塗り壁に対してベーシックな光の扱いとし、又一方では下階の空間と共に大きな開口としての扱い、ルーバーを透し外部化された内部をつくりだしている。機能的な光、劇的な空間を創り出す光、理念化された光、又インテリア化された光へとまだまだその可能性を探ってみたい。建築を取り巻く環境はもちろんいろいろな事が変化していく現在、社会への関わりと同じようフレキシブルに対応していく中から次への可能性を見出したいものである。



対比的に扱い「ソト」と「ウチ」を表現する二列のトップライト。



吉井歳晴プロフィール

1957年大阪府生まれ。1979年大阪工業技術専門学校卒業。北村陸夫+ズーム計画工房。1980～84年大建企画設計。1984年～86年吉村篤一／建築環境研究所。1987年吉井歳晴設計室設立。1989年WIZ ARCHITECTSに改組。現在大阪工業技術専門学校・関西大学・神戸芸術工科大学・大阪市立大学非常勤講師
兵庫くすのき建築文化賞受賞他
作品／GP.GUESTHOUSE、青山高原の山荘Ⅰ・Ⅱ、都島の家、野田の家、熊取の家、豊中・本町の家、武庫之荘の家。他、住宅の設計を中心に活動
著書／建築MAP大阪・神戸TOTO出版（共著）

空のある浴室



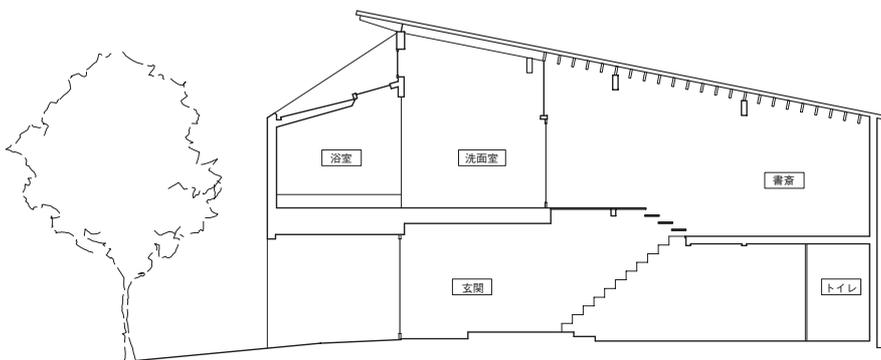
高城町の家／長坂大



テラスへ連続する遊び場のような洗い場。風がトップライトへ吹き抜ける。



空を見ながら風呂に入りたいと言われた。ジャグジーバスへの思い入れも固かった。こうした浴室に対する建主の想いは、家族室を2階につくる構想と重なり、ひとつながりの木製デッキがバルコニーと浴室の洗い場を連続させるプランとなった。この住宅は賑やかな市街に近い住宅地の中にあるけれど、南側にはゆったりとした緑地がある。この緑地の「雑木林」化をめざして、アキノレをはじめ様々な木を植えた。これらが成長すればバルコニーは緑に包まれ、その緑のバルコニーのイメージは家族室へ浴室へと浸透してゆくはずである。浴室の大きい方のトップライトはフィックス、小さな方を開閉式にして通風換気をはかろうと考えた。板張り天井になるべく材料を揃えようと木製枠のベルックスウインドウを使うことにしたが、窓枠の開閉部分ぎりぎりまで天井材を張り廻せるところが小気味好い。



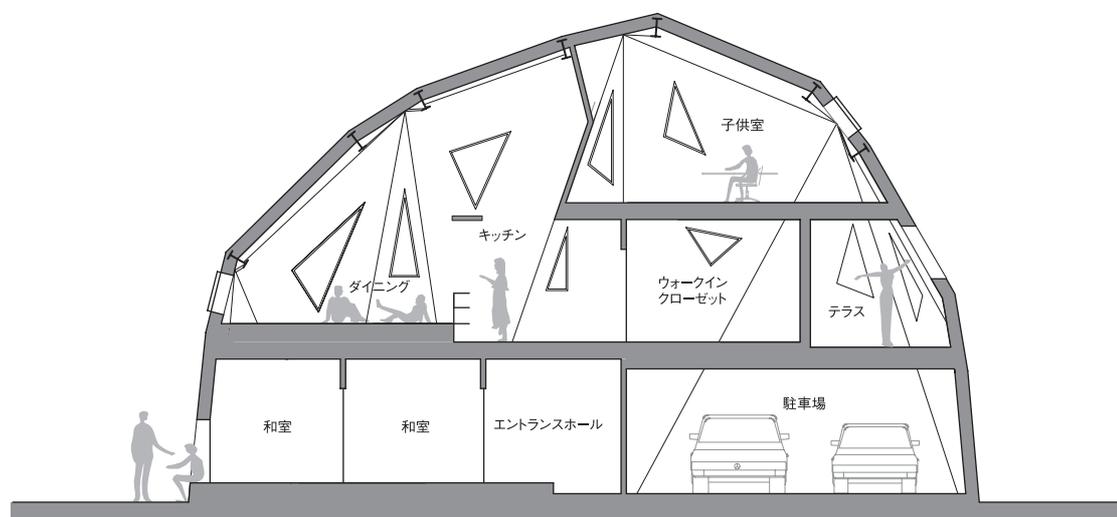
長坂大プロフィール

1960年神奈川県生まれ。1982年京都工芸繊維大学住環境学科卒業。アトリエ・ファイ建築研究所。1990年Mega設立。京都工芸繊維大学助手を経て現在奈良女子大学助教授、博士(工学)。1990年「SD Review」鹿島賞・92年環境芸術大賞・95年「SD Review」入選・96年建設大賞

多様な角度と一体化する開閉窓



「Bubbleecture岡澤」南東外観



Bubblectecture岡澤／遠藤秀平



風景を切り取り、四季のうつろいを引き込む



異なった傾斜がもたらす多様な表情

大阪から車で3時間の地方都市に位置する4人家族の住宅である。地域柄、車が家族の生活の一部であり、車愛好家のクライアントからの要望は車庫のような外観と、生活の中でどこからでも愛車の様子が伺えることが求められた。各階諸室は、パンチングメタルによる階段室を中心に配置した。パンチングメタルによる視覚的開放が家族間、家族と愛車との共有部分となり、コミュニケーションを誘発している。敷地は角地で隣家がある北面以外の3面は開放されている。この開放された3面をトラス架構により様々な角度で傾斜する19面の3角形で屋根/壁が連続する泡状構造体(Bubblectecture)で形成している。この異なる角度で傾斜する屋根壁面が内外部において多様な表情と空間をもたらし、それにあわせて取り付けられた開口部から多彩な光が内部に注ぎこまれる。また、比較的低い位置に設置された窓は緑豊かな遠方の風景を切り取り、室内に四季のうつろいを引き込んでくれる。



遠藤秀平プロフィール

1960年滋賀県生まれ。1986年京都市立芸術大学大学院終了後、石井修・美建設事務所。1988年遠藤秀平建築研究所設立。

〈受賞〉1993年アンドレア・パラディオ国際建築賞。1999年関西建築家大賞。2000年第7回ヴェネチアビエンナーレサードミレニウム建築大賞。2001年フランチェスコポロミーニ国際建築賞。2002年第8回公共建築賞優秀賞。2003年芸術選奨文部科学大臣新人賞。2004年第9回ヴェネチアビエンナーレ特別賞他

〈著書〉2003年ENDO SHUHEI PARAMODERN (Paidon／アメリカ)2004年 SALZTEcTURE (Salzburg Summer Academy／オーストリア) 他

都会のひだまり



代官山の家(改修) / 金田正夫



天空から降り注ぐ光のシャワーは1階の隅々にまで行き渡る。



『暗い・狭い・寒い三重苦』

都心の密集地であるが故に、陽射しも明かりもまともに入らない。6帖の大きさを小割された部屋には使いにくさと狭さばかりが目について、暗い・狭い・寒い三重苦を生み出していた。

『雨の入らない中庭は広さづくりの手品師』

周りは3階建ての住居が敷地一杯に建ち並ぶ。空いているのは真上のみとなる。そこでわずかにあった空地にガラスの壁と屋根をかけて雨の入らない中庭を造った。

雨が入らないから中庭と室内との隔ては不要となるので、室内は思いっきり開放される。建具が取り払われると広がりも生まれ始める。面積には限界があっても、視覚上は天空を取り込んで無限の広さがつくり出された。

『天空からの光は無尽蔵』

天空から降り注ぐ光のシャワーは、吹き抜けの中庭から1階の隅々にまで行き届く。かつての薄暗い世界はもはや想像できない。

『吹き抜けは風の流れを生み出す』

吹き抜けは風の流れを生み出し、夏は1階から2階へと風が抜けていく。ベルックスを開ければその効果ははっきりと表われる。冬は床暖房の効果を2倍も享受できる。

わずかな空地につくられた半屋外の光庭は一石三鳥の効果を生み出し、三重苦は解消された。



金田正夫プロフィール

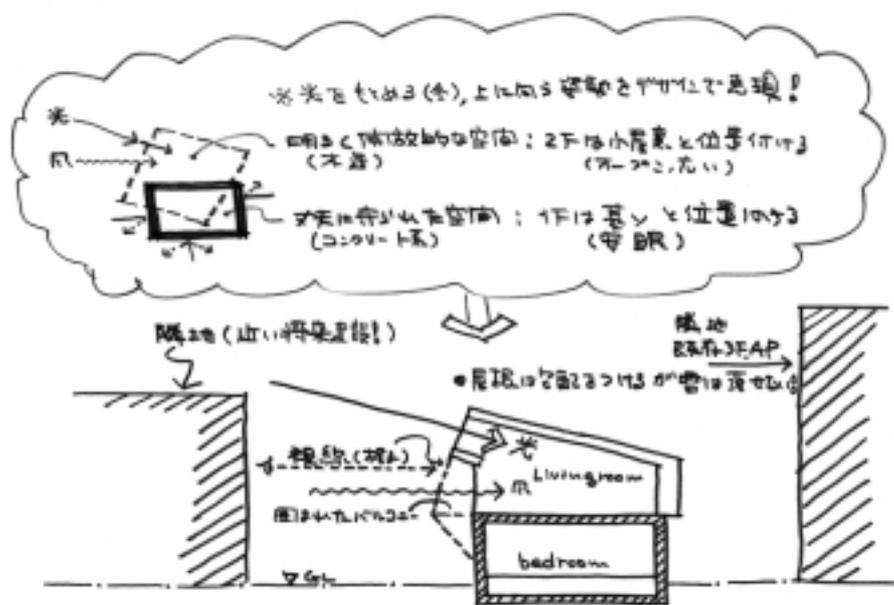
1949年東京に生まれる。1973年工学院大学建築学科を卒業。都市建築計画センターを経て1983年設計工房無垢里設立。1999年東京ガス第2回あたたか住空間デザインコンペティションリフォームの部優秀賞・2001年2000年度日本建築学会設計競技(技術部門)佳作(他3名の共作)受賞。

著書 / 図説民俗建築大辞典・柏書房(共書)、ナルチン人22「厚い土壁の蓄熱力と置き屋根の遮熱効果に学ぶ」(風土社)等

北東北の光と影



目の高さの格子が隣家の屋根をカバーし天窓から日が差込む





居間と同一空間であるキッチンにも
ふんだんに日差しがある



隣家の屋根越しに入ってくる光の軌道を外壁に反映してある

津軽は、寒く暗い冬が長く続きます。しかし雪景色や厚い雲の合間から時折顔を出す青い空はとても美しい、そしてそこから差し込む日の光、これらは何物にも変え難い有難さを感じさせます。そんな冬場の外的条件を室内空間に組み込むこと、しかも快適に。これこそが開口部の持つ大きな役割の一つでしょう。この住宅は、隣同士がひしめく青森市内に建っています。快適に暮らすため生活空間を2階レベルにあげました。採光用の開口部をトップライトとし、さらにベルックスならではのベンチレーション機能を計画換気を利用しました。視線の高さにも大きく開口を取りましたが、こちらは視線を防ぐためルーバーがありそちらは通風を期待した開口部です。また気になる夏場の日差しによる温度上昇も、ブラインドによるコントロールで解決されました。室内に自然光をふんだんに取り入れ、光と影をコントロールすれば、北東北の寒く暗い冬も心豊かに暮らせるのです。



前田卓プロフィール

1953年青森県生まれ。1979年工学院大学建築学科卒業。同大学難波研究室実験助手。前田建築設計事務所、日本設計出向を経て、1993年アトリエ タアケー級建築士事務所を設立。秋田桂城短期大学・東北大学非常勤講師。東北建築賞作品賞(3回)、あおり優良木造住宅コンテスト優秀賞受賞(5回)。

生成に濾過された自然光がすべてをやさしく包み込む



屋根の上の天窓は流れ落ちるガラスのしずく。

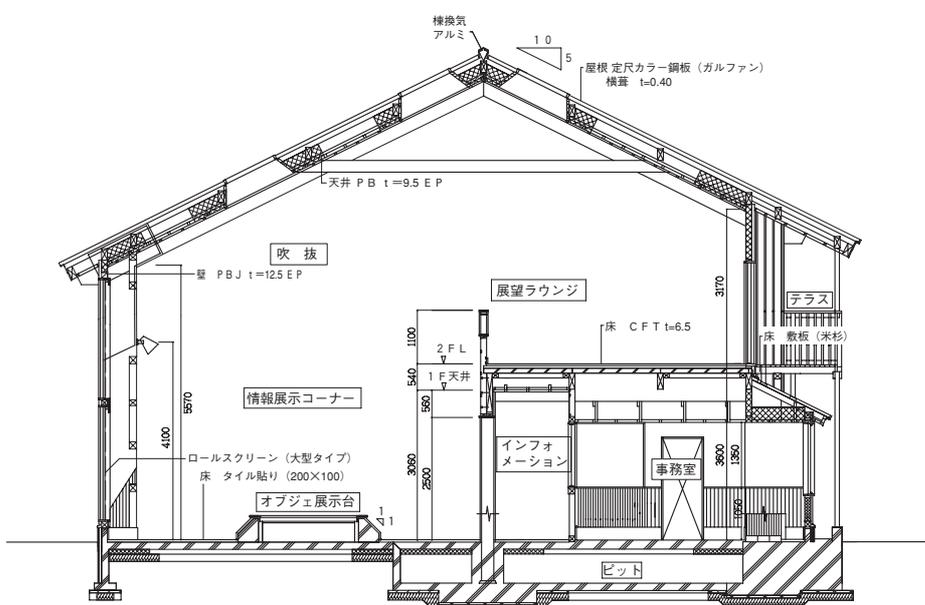


10,000ルクスのあかりが屋根にあけた穴(天窓)から流れ込む。

川湯エコミュージアム／若本隆志



「環境庁川湯エコミュージアムセンター」は、阿寒国立公園の川湯温泉にある。アカエゾマツの原生林を背景に、自然とのふれあいの玄関となるべく建てられた自然博物館展示館で道産カラマツによる大断面集成材構造の建物である。博物館に類するものは概して人工照明による演出をおこなうため自然採光は無用あるいは不可とされるが、この施設は自然光をふんだんに取り入れることを前提として展示計画がおこなわれた。その結果明るく開放的な展示空間が出現した。トップライトはその空間に十分な効果を提供してくれた。人工照明の何倍もの明るさが、それもランニングコストなしで得られる。まさにエコロジーである。ただ直射光はきつすぎるので生成のロールスクリーンで拡散させている。和紙や生成は光をトリロとさせ、ビジターや展示をやさしく包み込む。ベルックスは、北海道でもほとんど結露しないし雨の入らない換気スリットや材質がパイン材というのも気に入っている。しかし、重要なのはモノの性能だけではなくそれらのモノで組み上げられた空間が人の五感に心地よさをもたらすことができるかどうかである。人間は五感で感じてから理由を探す生き物なのだから。



若本隆志プロフィール

1951年北海道苫小牧市生まれ。1973年カロンインテリアデザイン研究所卒。1976年北海道産業専門学校建築科卒。1988年チカラ総合設計株式会社代表取締役就任。釧路湿原野生生物保護センター、温根内ビジターセンター、厚岸水鳥観察館等、大断面集成材を用いたものから小住宅まで木造建築を主に手掛けている。



ベルックスの情報は、インターネットでも提供しています。

www.VELUX.co.jp

E-mailアドレス: info@VELUX.co.jp

日本ベルックス株式会社

本社
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷1-23-14
ベニーリーフビル
Tel : 03-3478-8141 (代)
Fax : 03-3478-8147

札幌
〒003-0024 札幌市白石区
本郷通7南3-15
シティスカイコート2F
Tel : 011-864-4761 (代)
Fax : 011-864-4760

仙台
〒981-3134 仙台市泉区
桂1-16-3
Tel : 022-373-8831 (代)
Fax : 022-373-8854

名古屋
〒465-0095 名古屋市名東区
高社1-266
ラウンドスポットー社4F
Tel : 052-773-3517 (代)
Fax : 052-773-3572

大阪
〒532-0011 大阪市淀川区
西中島4-6-24
大拓ビル9 2F
Tel : 06-6300-5036 (代)
Fax : 06-6300-5206